

未来へつなぐ、本の居場所

——日野市立中央図書館で考える残したい景色

無料
入場

11月28日 土

[開場]17:40 [開演] 18:00

会場・日野市立中央図書館

講師 校正者

む た さ と こ

牟田 都子氏

定員 50名 ※定員を超えた場合は抽選(市民優先)

申込方法 Webまたは市内各図書館窓口

申込期間 11月1日 日 10時～11月15日 日 17時まで

申込みフォーム



<https://logotom.jp/form/290K/177491>

[主催・お問合せ先] 日野市立図書館 ☎042-586-0584(代表)



撮影：疋田千里

日野市立中央図書館・国登録有形文化財登録記念講演会

未来へつなぐ、本の居場所

——日野市立中央図書館で考える残したい景色

2026年11月28日(土) 開場17:40-／開演18:00-

会場：日野市立中央図書館 講演：牟田 都子氏

日野市の図書館は、昭和40年（1965年）に1台の移動図書館から始まり、それから8年後の昭和48年（1973年）に中央図書館が開館しました。

移動図書館ひまわり号が活動を始めた当時、日本の公共図書館では、資料は書庫から出してもらい、館内で閲覧するという方法が主で、図書館は一般の市民にとって敷居の高い存在でした。また、利用の大部分は学生の座席利用で、受験シーズンには図書館に列をなす受験生の姿が、風物詩としてニュースに取り上げられました。戦後の経済成長の過程で各地に図書館が建設されましたが、サービスや使いやすさより、見た目の立派さを重視して作られた図書館も多かったようです。

こうした状況のなか、「図書館の基本的・本質的機能は資料の提供である」と、日本の公共図書館を市民のための図書館へと変える契機となったのが、前川恒雄を初代館長とする日野市立図書館の活動です。移動図書館で市内全域をめぐり、市民が読みたい本、必要とする本の貸出に徹し、市民のくらしの中に図書館を浸透させていきました。

やがて「動かない図書館がほしい」という市民の声を受け、地域の中の図書館として分館の設置を進めていく中で、サービスの拠点として建てられたのが中央図書館です。後に日本の図書館建築のパイオニアと評される建築家・鬼頭梓は、前川館長と連日議論を重ね、実際に移動図書館にも乗り、「市民の図書館」の理念を形にした中央図書館を設計しました。

その後の図書館建築に影響を与えたといわれる中央図書館は、令和8年（2026年）2月に国の登録有形文化財（建造物）として正式に登録されました。これを記念し、校正者の牟田都子さんをお迎えして、ご自身の図書館とのかかわりや想いなどについてご講演いただきます。

講師

校正者 牟田 都子 Satoko Muta



1977年、東京都生まれ。校正者。学生時代に前川恒雄『われらの図書館』を読み、図書館員を志す。公立図書館、総合出版社の校閲部を経て、2018年より個人で書籍の校正を行う。著書に『文にあたる』（亜紀書房）、『校正・校閲11の現場 こんなふうに読んでいる』（アノニマ・スタジオ）、編著書に『贈り物の本』（亜紀書房）など。

（写真撮影：疋田千里）

申込み

11月1日(日曜)10時～
11月15日(日曜)17時まで

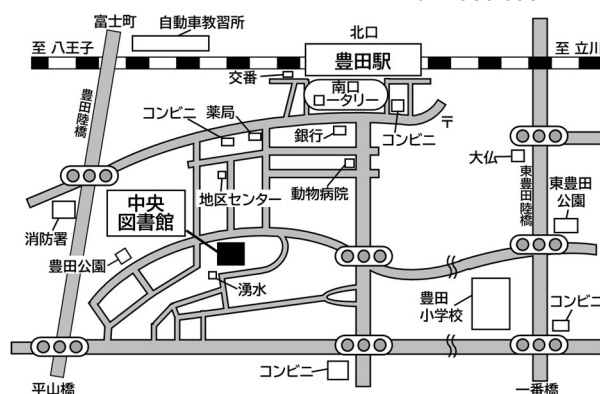
- Webまたは市内各図書館窓口にて【申込みフォーム】をお申込みください。
- 定員を超えた場合は抽選(市民優先)となります。
- 抽選の場合、11月20日(金曜)までに当選の受付番号を市内各図書館や図書館ホームページに掲示します。



<https://logoform.jp/form/Z9UK/1777491>

アクセス

日野市立中央図書館 東京都日野市豊田2-49 ☎042-586-0584



- 豊田駅南口から徒歩6分。駐車場あり(無料)
- 駐車場はスペースが限られていますので、公共交通機関でのご来場をお願いいたします。



1973年5月撮影